

【第7回】 ●日 時:平成22年5月30日(日) 13:00~16:40 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内、吉沢公民館 ●参加者:総数84名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 猪俣会長)

休日にも拘わらず沢山の参加者の下、第7回ワークショップを開催できることを、この場を借りて厚くお礼申し上げます。このワークショップは平塚市、東京農大、地元、日本土地建物㈱の「産・官・学・民」一体となった里地里山を活用したイベントであります。昨年に引き続き、作物の作付けも行います。怪我のない様に楽しくできたらと思いますので、宜しくお願い致します。



●東京農業大学あいさつ(農大 麻生教授)

農大からは新入生を含めた現役の学生や卒業生と合わせて約20名の参加となります。「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」は、農的活動、里山管理、地域との関わりがもてるという、素晴らしい教育のフィールドが残っている土地であります。この度農大では、地域との活動の受け皿となる「地域再生研究部会」が来月発足する予定で、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」でも「産・官・学・民」を通じた活動の土台が出来上がりますので、今後とも宜しくお願い致します。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 久永部長)

このワークショップも第7回を迎えることができ、うれしく思います。里地里山の維持保全活動も農大の協力の下、ここまでできました。こちらの活動も協議会を中心とし、多様な方々へ輪を拡げていければと思いますし、里地里山管理以外の活動も、協議会と相談しながら一歩二歩と進むよう努めていきたいと思っています。



ワークショップの概要

農的活動(農作物の作付け等)

地域の課題解決策として、休耕地に農作物の作付けを実施しました。昨年の第4回に作付けを行った「サツマイモ」「ヤーコン」「エダマメ」「ショウガ」「ヤマイモ(ヤムイモ)」に加え「サトイモ」「コンニャクイモ」「ラッカセイ」「秋ウコン」「クウシンサイ」等を作付けしました。又、イノシシ対策としてネットも張りました。尚、当日は、中戸川副市長にもご参加頂きました。



中戸川副市長からご挨拶を頂きました。



畝づくりの様子



マルチングの様子



ヤーコンの作付け



ショウガの作付け



イノシシ避けネット張り



完成しました。収穫が楽しみです。

「下草刈り」成果確認

植生モニタリング調査の結果

管理地(下草刈り実施)				未管理地(下草刈り未実施)			
調査日	調査日	調査日	調査日	調査日	調査日	調査日	調査日
H21.3.11	H21.4.16	H21.9.2	H22.3.31	H21.3.11	H21.4.16	H21.9.2	H22.3.31
低木・草本	低木・草本	低木・草本	低木・草本	低木・草本	低木・草本	低木・草本	低木・草本
16種	26種	45種	33種	15種	16種	18種	16種

貴重な植物の出現



キンラン



イチヤクソウ

東京農業大学 麻生教授からの講評

説明にもありました通り、イチヤクソウができました。里山の保全管理活動をしていて、貴重な植物が出てくるのは、一番感動できることだと思います。また、前回の下草刈り[平成22年3月31日実施]の成果としては、管理地の近くで、キンランが確認されました。

他にもこのような珍しい植物が、アズマネザサの下で細々と生きていると考えられます。また一年目ですので、これからも継続的な管理が必要です。

尚、イチヤクソウやキンランは菌類と共生しておりまして、そのような植物は移植が難しいとされています。移植してしまうと2年、3年で枯れてしまいますので、採取せず大事に見守って頂ければと思います。



「散策路整備」成果確認

第6回ワークショップで行った散策路整備活動下草刈りの状況を確認しました。貴重なオニノヤガラを確認でき、今後の整備の必要性を認識しました。

ワークショップ前年度の総括

今回のワークショップでは、キンランやオニノヤガラの着草が確認でき、主催者側として、一つ成功できことをうれしく思います。第6回ワークショップの際に答えて頂いたアンケートの結果について簡単に講評させていただきます。(麻生教授)



良かった点

- ・若者と作業ができた。(地元)
- ・多様な世代と交流を持てたことが良かった。(学生)
- ・今は、高齢化が進み、どの場面でも若者の活躍が期待されており、地域の活性化も十分に期待できると思います。(麻生教授)

地元の自然や風景について

- ・ワークショップを通じてまちの自然や風景の再発見ができてよかった。
- ・里山の環境に触れられ、自ら育てた作物で調理することもできていい経験になった。(学生)
- ・一年を通し、里山の継続した管理の経験ができ達成感も得られましたし、社会的にもセラピーの面でこういった活動が注目されています。(麻生教授)

反省点

- ・参加者に対してワークショップを開催する意義などの説明が不十分だった。
- ・習得する知識に偏りが出ている。難しい問題ではあるが、ワークショップで習得したことを学生たちがまとめていき、共有の財産にするのもいいと思います。(麻生教授)

PR面

- ・地元の若者や幅広い方々の参加を促すためにも、地元や大学でのPRの方法を工夫した方がいい。

活動全体

- ・外での作業が多いとワークショップに活気が出る。
- ・企画の段階から携わってほしい。(学生)
- ・里山整備活動:活動の中で竹林の整備もできたらいい。
- ・農的活動:成長の経過がわかるような工夫を凝らしていきたい。
- ・散策路整備活動:案内板の設置や散策路の周辺を整備すると、ほかの植物の発見につながっていくのではないかな。
- ・計画的に活動を続けていくためにも、課題のわかるマップ等をつくると継続的なワークショップ活動が期待できます。(麻生教授)

【第8回】 ●日 時:平成22年9月26日(日) 13:00~17:10 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内、吉沢公民館 ●参加者:総数87名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』
あいさつ(協議会 猪俣会長)

みなさん、こんにちは。休日にも関わらず皆様の出席大変ありがとうございます。地元では、今秋の採り入れて忙しい時でございます。平成20年11月に第1回目のワークショップが開催されまして2年の歳月を費やしております。



本日は竹林の整備を考えております。また、地元の「とれたてプラザ」と「ママの会」とに、竹にちなんだ料理を作って頂きます。懇親会で楽しんで頂ければと思います。最後になりますが、くれぐれも怪我の無い様に気を付けて下さい。それでは、本日もよろしくお願いします。

●東京農業大学あいさつ(農大 麻生教授)

みなさん、こんにちは。この夏は非常に暑く、5月に植えた作物が大変だった様ですが、学生が色々皆さんのお世話になったようで、本当にありがとうございました。農大では6月に地域再生研究部会が立ち上がりまして、この活動の受け皿として受け入れていくこととなります。年度末に里山の再生、地域連携をテーマにフォーラムを開催したいと思っております。また農大のオープンカレッジで「ひらつか・ゆるぎの散策」を10月半ばに開催します。大変な人気でございます。里山に関心が高まっています。この動向を受け止めながら、ゆるぎ地区の活性化に繋がれば良いと思っております。今日は竹林の管理ですが、昔、使われていた孟宗竹が今では使われなくなりまして、逆に竹がすごい勢いで在来の植物を駆逐する状態にあります。ゆるぎ地区でも「何とかしなければ」と思っていたのですが、今日作業ができます。竹林管理も大事な里山管理となります。



今回初めて東海大学観光学部から田中伸彦先生にご参加頂きました。森林レクリエーションを専門とされており、去年まではつくばの森林総合研究所にいらしていました。現在は東海大学に観光学部が新しく創設されて、未だ学生は1年生ですが来年あたりから学生も参加頂ければと思います。よろしくお願い致します。

●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 小山田課長)

みなさん、こんにちは。平塚市まちづくり政策部の小山田と申します。いつもより若い方が多いように感じます。5、60名と聞いておりますが、半分以上の方が、地元ではない方ということで、非常に良い方向に会の運営が進んでいるという状況で、素晴らしいと思っています。平塚市のまちづくり条例の中に「地区まちづくり協議会」という認定制度がありまして、第1号に認定すべく協議を進めております。この地域だけではなく、他の地域でも地元主体としたまちづくり活動が活発化してきております。大変喜ばしいことと思っております。平塚市としましてもできるだけ色々な形で支援出来る様に、私どもの「まちづくり政策課」だけではなく、関係各課等も応援出来る様な体制を整えていきたいと思っております。今後とも皆様のご活躍をお祈り申し上げます。本日はよろしくお願い申し上げます。

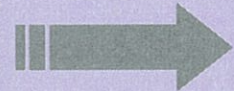


ワークショップの概要

里山管理活動(竹林間伐整備)



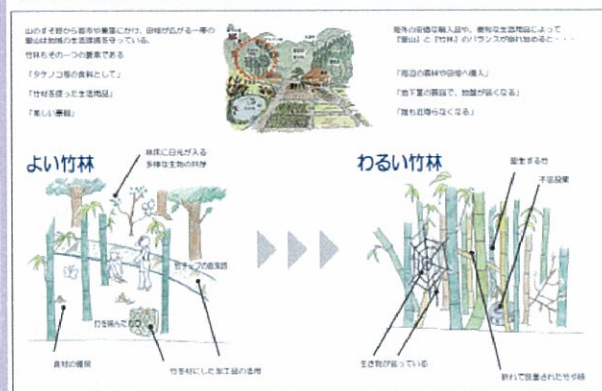
整備前です。25㎡に約30本生えています。



整備後。25㎡あたり、5、6本です。



竹林の間伐 里山と竹林



竹を使った調理体験

バウムクーヘンづくり

バウムクーヘン作りに適した竹は、直径5cm~10cmで節が真っ直ぐかつ間隔が長めのマダケが適しています。竹を火であぶり、竹から出る油をなじませてからタネをかけます。1時間半位で厚さ3cm位になります。1時間くらいで完成。



竹筒ご飯づくり

竹ご飯に適した竹ですが、直径が10cm程度あり、節間がある程度長い孟宗竹が適しています。蓋をこの様に作り、中を良く洗ってからお米を炊きます。



懇親会の様子

